

資料 10-5 に対する追加質問について

城戸 毅

12. ③について追加、この回答は地下鉄経営者としての回答であって、行政当局としての答えにはなっていません。氾濫雨水にせよ、津波にせよ、水が低きに就くに当って都営地下鉄入口であるか、東京メトロ入口であるかに頓着することはあり得ません。水は人がつけたいかなる名目にもかかわらず物理的に低い方に流れて行くものであることは誰でも知っています。水は都営地下鉄ばかりでなく、東京メトロの入口からも地下に入っていきます。東京メトロの入口からの水の流入について都は関知しないというのですか。また地下鉄のトンネルは都営も東京メトロも互いにつながっているのですから、地下に流れ込んだ水は都営であろうと、東京メトロであろうと、地下街の全体に広がりますから、都営の入口だけを塞ぐことは意味がありません。さらに本年4月10日に放送されたNHK総合テレビ「クローズアップ現代」で東京の地下街の問題が取り上げられ、そこでもこの問題が言及されていました。テーマは「広がる地下迷宮―都市の地下開発最前線―」で、そこに都市地下空間活用研究会主任研究員という人が登場して、次のように述べていました。即ち津波などに対しては浸水の防止よりも避難路を確保したのち地下街や地下鉄の利用者に出来るだけ早急に警報を発して利用者に高所に避難して貰う、ということだと（同番組の最後の部分）。これはつまり地下街や地下鉄路線への浸水の完全防止は不可能なので、それらには重点を置かないということだと思いますが、そう理解してよいのでしょうか。ちなみに同じ解説者は集中豪雨による雨水の氾濫に対しては地下への出入り口で浸水を防ぐ方策がとられるように述べていましたので、ここでの東京都の回答は雨水の氾濫への対策だろうと理解しますが、そう理解してよいのでしょうか。実際には強い地震の後地下街や地下鉄からの安全な避難路を早急に確保することはかなり困難だろうと思われるので、津波の浸水から地下街や地下鉄の利用者を完全に保護する目的は事実上放棄されているに等しいのではないかとも思われますが、都はどう考えますか。この解説者の発言については都は責任を負いかねるかもしれませんが、それなら都はどのように考え、どのような方策を持っているのですか。

12. 最後の3行へのコメント。私の資料10-8の最後の部分での質問の眼目は「今日の我が国の財政危機の中で被災地の支援を措いて外環のような巨額の財政支出を伴う公共事業を進めることの是非」を問うているので、「上記のような様々な問題に対して答えられる担当者にこの会に出席して答えて貰いたい」ということではありません。上の問いに答えられない場合には三つの問題のそれぞれについて問題解決のために、外環の2に対する支出と比較してどれほどの支出を行っているかを尋ねているのです。